

着いたら、もう四時半だった。

人もまばらで、少し、寒い感じだった。

風が強くて、砂ぼこりが舞っている。

しかし、池にさざ波がおきて、風景はきれいだった。

その女の人も、「こぶ付きのデイト？」と

はじめは、キョトンとしていたが、

健ちゃんの明るい人柄に、いろいろ話はずみ、静かに聞いている僕にも声をかける様になった。

僕は学生服で、高田はんは、

ちゃんとしたよそ行きの服来てるが、

それほど、僕とは歳が変わらんとわかった。

高田はん、ボートにこわこわ健ちゃんに乗せられ、

風がびゅうびゅう吹く中で、池の真ん中まで出ると、

ボートがよく揺れるので、泣きそうな顔だった。

風が強く、寒い。

高田はんは、スカートを風から押さえるので苦労している。

一時間、百五十円で借りたが、

健ちゃんと高田はんを対岸に残して、再び、すぐ、

今度は、僕が一人漕ぎ、ボートを返しに行った。

高田はん、「寒い、寒い」と泣きそうな顔。